

執筆者：住中 光夫
システムリサーチ&
コンサルト株式会社
代表取締役



マイクロソフト社のセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者より1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeソフトにかかわる多方面で活躍中。www.suminaka.comも要チェック!

特別連載

知って納得! 第8回

Office活用セミナー

マイクロソフト社セミナーで大人気! Office指南のカリスマ・住中先生が、パソコンをビジネスに活かすための心構えをわかりやすく解説する!!

実務現場でデータベースを構築し、写真や数十万件の

データを利用し分析する

実務現場でのデータベースの利用

会社の実務部門には、その部門で利用する各種の情報があります。それは、数字だけでなく文字情報であったり、写真情報であったりします。

これらの情報を集め、データベースとして利用することが多くの企業で始められています。企業の販売システムなどの基幹データベースには、数万、数十万の売上データなどがあります。しかしこれらのデータは、請求書を出すことや在庫一覧表を作成することが目的だったりします。そのために、営業部門などの実務現場で必要な分析項目や情報が入っていないことが多いのです。

そこで実務現場の情報データベースと、この販売システムなどの基幹データベースを関係付け(リレーション)し、実務現場で利用するようにします。

Accessで行なう実務現場でのデータベース構築

その時に、実務現場で利用するデータベースソフトがOfficeソフトのひとつ、Accessです。Accessは、リレーショナルデータベースというもの。リレーショナルデータベースとは、データを表形式で持ち、複数の表を得意先コードなどの項目を利用して関係付けし、ひとつの表のように利用するものです。

たとえば、販売システムから得意先別売上データベースを取り込み、営業部門にある得意先情報データベースと得意先コードをキーにして組み合わせ、両方のデータを合わせて使うことができます。営業部門の得意先情報データベースには、業種や顧客リンクや地域などの分析項目があり、また得意先の写真データが入っています。Accessではこれらのデータと売上データを組み合わせ、

新たな顧客情報をデータベースにしたり、またデータ分析に利用できるのです。

左図の得意先台帳の画面は、Excelを少し知っている人であれば3日ぐらいで作成できる、写真などと売上データが入っているAccessのデータベース画面です。これからは、もっともつと実務現場でこのようなデータベースを構築して利用できるようにするはずですよ。

ところで、Excel上でのピボットテーブル機能によるデータ分析は、Excelシートが6万5536行のため、これ以上の件数のデータ分析はできません。

しかし、Accessなどのデータベースは何十万件ものデータを入れられる上に、ピボットテーブルの外部ソース利用で、何十万件ものデータでも簡単に分析利用できるのです。

販売システムの膨大なデータを営業部門などの実務部門のデータベースに取り込み、いろいろな情報と関係付けて数十万件のデータ分析を自由に行なえるようになります。これも、実務現場のひとり一人が行なうクライアントコンピュータのひとつです。

実務現場で利用するAccess画面サンプル



得意先台帳をAccessデータベース化したサンプル画面。上の画面のように、担当社員の顔写真や店舗の外観写真を取り込み、ひと目でわかりやすい台帳を作成できる。また右画面のように、月ごとの売り上げ推移をグラフ表示にしたり、データ分析も簡単に行なえる

